



# いきいき 通信

vol. 14



養正市営住宅 第710棟案内図



↑市営住宅の前にある透明な広報版。日々の風景を切り取る、絵のフレームに見立てて楽しみましょう。(田中馬場町)

↓養正市営住宅の中庭から空を見上げた風景。集合住宅らしく、均等に配置された窓や配管が、視点を変えることで際立ってきます。(田中玄京町)



↑ある住宅の壁。抽象絵画の巨匠マークロスコのような白と茶色のツートンがなんとも美しい。(田中上柳町)

1

入門編  
形を手掛かりに見る

どうすれば、街を面白い視点で見ることができるか？まずは入門編。街に溢れる色々な「もの」を、形・配置・バランスを手掛かりに探してみます。



↑養正市営住宅の案内図。近未来な建築物が、こんなすぐそばにあったとは驚きです。どの部屋も日当りが良い、優れた物件。(田中上柳町)

←大きな三角形に、グリッドの屋根、奥に続く階段など、幾何学の世界が広がる不思議な場所。(田中東高原町)

2

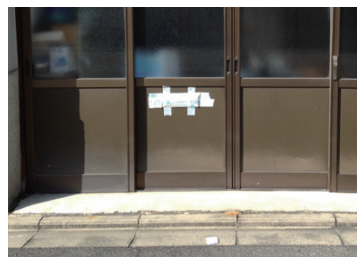
応用編  
無用な物から見る

形あるものを何かに見立てることが出来たら、次は、今となっては「無用」になったモノたちを探してみましょう。そこから想像するかつてあった街の風景。そこに思いを馳せてみます。

養正地区  
路上観察のススメ

普段、私たちが住む街や地域を違った視点で観察してみると、新しい発見があったり、そこに住む人々の生活や街の変遷に触れることが出来ます。今回は、養正地区周辺の、ちょっと不思議なものや、\*トマソンの建築物、道ばたに隠れる看板や貼紙を手がかりにした、路上観察のススメをご紹介します。みなさんも街に繰り出し、路上観察を楽しんでみませんか。

\*トマソン=故・赤瀬川原平らが提唱した、街にある無用の長物に美しさを見いだした芸術上の概念。元読売ジャイアンツ・三振王のゲーリー・トマソンに由来する。



←「もう何も入れないで」という印なのだろうけれど、ケガを治す絆創膏の様に見える可愛い。(田中大堰町)

→逃げないタイプその2。街灯柱と、用途がわからない木が結ばれている。街灯はこの木と恋仲なのでしょう。(田中馬場町)



←当センターの会議室4にある謎の穴と突起。そもそもなぜタイル張り？と思っていたら、かつては調理室だったそう。(田中玄京町)



↑支えるものを失っても、支える気力を失わない健全なL字金具。(田中馬場町)

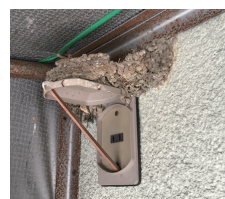


↑塀の向こうに更に塀。レンガ造りの西洋と、瓦造りの東洋が混ざりあった、異文化交流の痕跡がここに!?(百万遍付近)

↓空き缶専用ゴミ箱の蓋のみが地面に放置されていた。空き缶すら入らない状態の穴ではあるが、何故か無理矢理そこそこの大きさの石が突っ込まれている。(田中玄京町)



↑逃げないように(?)勝手口のドアノブに結ばれた木々。(高野藤原町)



↑春の観音出町柳駅前にはツバメの通り道。ツバメの巣の痕跡をお店のあちらこちらに見かける。なかにはコンセントケースを割り箸で支えて巣の土台にしたものも。暖かくツバメを迎え入れている様子が見える。(出町柳駅前)

3

上級者編  
人々の生活の術を見る

最後は、そこで生活する人々の生態にも迫ります。路上に溢れる生活のアイデアや、愛しき創造物。そこには、人々の生活の術や魅力があふれています。また、生活を豊かにするアートのようにも見えませんか？

↓外塀に見つけた、水道管のような突起物。それを上手く利用して物干に。(田中玄京町)

↓→駐車場のフェンスの裏に設置された「止まれ」の標識。聞けばここは昔、道だったそう。その名残を感じられる。(田中上柳町)



↑もともとお店をされていたようです。店先にあるビニール製の屋根、正式には「テント」と呼ばらしい。(高野藤原町)



←とある住宅とマンションの間にあった扉？二枚で観音開きのようにしてあったものが片側だけ残された模様。隣のマンションのデザインと妙にマッチしています。(高野清水町)



## 前回より規模を拡大して開催した「いきいき秋の音まつり」を開催しました。



今年の3月におこなった「いきいき春の音まつり」から規模を拡大しての、「いきいき秋の音まつり」を11月2日に開催しました。今回は左京西部いきいき市民活動センターと向かいの高齢者ふれあいサロン両方を会場にして開催しました。当日は朝からイベント中は雨が降ったり止んだりの繰り返しで、すっきりとしないお天気でしたが、10時開始の楽器作りから沢山の親子連れの方が来場しました。思い思いの楽器を作って楽しんだり、様々な打楽器の音をひとつひとつ確かめるように遊ぶ子どもたちの姿が印象的でした。春・秋と開催したこの音まつりのテーマが、普段身近なところに様々な形で存在する、支える側と支えられる側という立ち位置の違いや障がいの有無、無知関心から生じてくる気持ち、目線、視点。そんなすべてのものをフラットなものとし、みんなが当たり前に自然に支え合えるバリアフリーな社会実現を目指すイベントにしたいという思いがあり、世界各国の音楽を楽しむ企画や、障がいをもちながらも、アーティストやミュージシャンとして活躍する方をお呼びした内容で開催しました。ワークショップやライブ等、参加型の催しが多い中で、子どもから高齢者まで、技術の有無や障がいの有無を越えて、音楽やダンスを笑顔で一緒に楽しむ姿が見られました。



また、普段、当センターで「よし笛」の練習をされているグループを中心に、3団体による「よし笛コンサート」も開催されました。この日演奏された3団体が集まるのは初めてのことで、グループ同士、また他の出演者との間でも、音まつりが新しい交流のきっかけとなったようでした。15時からのタケオ&大阪マライカの演奏がこの日のクライマックスでした。「アフリカではパーカッションはエンターテインメントではなく、例えば言葉のように、コミュニケーションの道具である」とは今回のイベントにご協力いただいた、おんらく市場さんから教えていただいた言葉です。タケオさんはバンドメンバーの大阪マライカと共に、打楽器の激しいリズムにのせて様々な身振り手振り繰り出し、会場に居た子どもから高齢者まで、誰でもが理解できる言葉で音楽を通して語りかけていたように思います。その証に子どもたちは踊り、飛び跳ね、ちょっぴり恥ずかしげな人たちもみんな、思い思いのペースでリズムに身体を揺らしていました。

### 参加者の声

春、秋と音まつりへと参加させていただきました。来られている方みなさんとスタッフが音楽を身近に楽しんでおられるアットホームな雰囲気の中で、毎回タケオも、のびのびと、はじけるようなパフォーマンスを見ることが出来て嬉しく思います。ぜひまた機会があれば、このタケオと大阪マライカのほとぼりするようなアフリカン太鼓で、皆さんと共に響き合いたいです。



出演者  
大阪マライカ  
上村さん

アフリカダンスをしている縁で、タケオさんからお知らせを頂いたのがきっかけで観に来ました。子どもたちも楽しんでいて、みんなで集まってダンスや音楽を共有できるイベントでよかったです。これからも続けてほしいです。

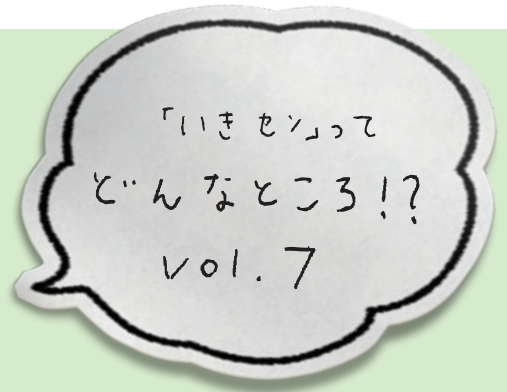


来場者・  
ニイユミコさん

アメリカから来ていて来年5月まで日本にいます。父がタイコをやっているのに興味を持って観に来ました。楽しかったです。アフリカのパーカッションを聴く機会はあまりないので聴くことが出来てとてもよかったです。



来場者さん



### 貸出用ロッカー

当センターには、事務所内に、貸出用ロッカーを設置しています。貸出しは有料ですが、毎回使用される道具の持ち運びでお困りの方や、保管場所を必要とされる方におすすめです。下記詳細をご覧の上、ご利用をご検討ください。

サイズ | 幅450mm × 奥行515mm × 高さ890mm

利用料 | 800円/月(9,600円/年)

利用期間 | 4月～3月までの1年間(空きがある場合は随時募集しています)

申込方法 | 「応募申請用紙」に必要事項を記入し、活動内容が分かる資料を添付したうえで、ご提出ください。

\*ご提出いただいた資料だけでは活動の内容等がわかりにくい場合は、再度ご連絡、個別に面接をさせていただきます。

\*現在、複数のロッカーに空きがありますが、場合によっては一杯になる場合がございますので、ご希望の場合はお早めにお申込みください。また、来年度の募集は1~2月頃を予定しています。(時期は予告なく変更する場合がございますので詳しくは当センターまで)

## 今後のイベント/参加募集

### 中学生のための演劇講座

ゲームを使った方法で演劇を体験してみませんか。講師は現役の役者さん！

日時:3月14日(土)・15日(日) 10:00~12:00 \*両日参加出来る方を優先  
対象:中学生(4月に入学される方・3月で卒業される方でも可/経験不問)  
料金:無料  
持ち物:動きやすい服装、筆記用具

### 少年少女・かいだんアート~麒麟をいっしょにみんなで描こう~

プロのイラストレーターと共に、  
当館の階段に展示する巨大な絵と一緒に描いてみませんか。

日時:2月21日(土)・22日(日) 13:30~15:30  
対象:4歳~小学6年生(未就学児は保護者同伴)  
料金:無料

### 食べ物語り展(仮)

誰にでも身近な「食」。食をテーマにした「思い出」を写真と共に展示します。

日時:3月中旬予定  
料金:無料

### 野菜市

恒例の「野菜市」は冬期休暇いたします。次回の開催をお楽しみに！

\*お申込み・お問い合わせは当センターまでご連絡ください

センター長・杉山 准の  
いきいき  
こらむ。

先日、障がいをもつ方との交流を目的に『いきいき秋の音まつり』という催しを行いました。そこではダウン症を持ちながらもすばらしい作品を作るアーティスト達が、作品や演奏を披露してくれました。彼らの創作や演奏は、彼らの生きる姿そのもので、その純粋さに心打たれました。私たちは大人になると、すっかり身体にしみ込んでしまった価値観や、「いつものふるまい」などから、なかなか自由になれないのではないのでしょうか。障がいを持ちながら生きていくことや、それを支える家族のみなさんのご苦労は想像に難しくありませんが、もしかすると、その「ご苦労」というのも、「私の目線からの想像」であって、本人やご家族は、障がいと寄り添って生きること、大いに満たされているのかもしれない。さて、今回の通信の特集は、街の中を観察・取材したものでしたが、ちょっと見方を変えるだけで、街はとってもゆかいで魅力的になります。堅くこわばった「私」を捨てて、あらゆる「あたりまえ」をちょっと違った目線で見てみると、街も人も、自分の生き方や幸せのありようまでも、思っていたものと違って見えるかもしれません。日々の慌ただしい生活の中でも、ちょっと立ち止まって、違う目線でものを見てみる、そんな余裕は持っていたいものです。